

2017年度 GSK 医学教育事業助成の概要

学会名

日本泌尿器内視鏡学会

正式名称

腹腔鏡技術認定取得に向けた e-learning システムの構築

医学教育事業の概要

腹腔鏡下腎摘除術、腹腔鏡下副腎摘除術、腎盂形成術の術式のビデオ収録
技術認定医養成のためのアンケート実施と e-learning システムの有用性の確認

医学教育事業の対象者

主な医療関係者：医師

対象となる医療関係者の想定人数：1,000人

医学教育事業の必要性

泌尿器内視鏡学会（JSE）では、泌尿器腹腔鏡手術を安全に普及し実施するために種々の教育制度を整備しているが、未だその教育効果は十分に行き届いていないのが現状である。その原因として、適切な講師の不足や教育施設などの偏在、講習会の開催頻度の不足などが影響していると考えられる。安全な泌尿器腹腔鏡手術手技を地域や教育施設に格差なく普及させていくためには、各地域、各施設で教育的な役割を担う技術認定医を養成することが不可欠であり、地域や学習時間にとられないインターネット教育システム、e-learning システムを学会主導で構築することが急務と考えられる。

医学教育事業の目的

わが国における安全な泌尿器腹腔鏡手術の普及を促進させるために、術者ならびに教育者となる技術認定医を地域や施設間の格差なく効果的に輩出していくための e-learning による教育システムを構築する。

医学教育事業の計画・方法等

今回申請した事業では泌尿器腹腔鏡技術認定制度の申請術式である腹腔鏡下腎摘除術、腹腔鏡下副腎摘除術、腎盂形成術を対象とする。これらの術式は泌尿器腹腔鏡手術の基本手技である臓器剥離、血管処理、尿管の愛護的処理、体腔内縫合などが含まれ、認定医の取得だけでなく、腹腔鏡手術の基本手技を習得する上でも重要である。これらの術式について、あらかじめ技術認定委員会の合意が得られた手順、手技を遵守した形でビデオ収録を行い、完成したビデオを審査委員会での合議を経て学会のホームページ上で公開する。各ビデオは基本的に無編集であり、基本手術を行う上で特に留意すべき基本的事項にはテロップまたはナレーションを入れることで教育効果を増強する。患者の体型や腫瘍の局在、病期など患者側の要因、到達法や使用機器などを考慮し、1つの術式に対して最低5本を収録する。各年度の技術認定において申請時にアンケートを実施し e-learning システムの有用性を受講者に確認するとともに合格率への影響を分析し教育効果を検証する。

医学教育事業の成果に対する情報共有について

泌尿器内視鏡学会ホームページに公開

日本泌尿器内視鏡学会誌への掲載

教育効果について学術論文に投稿